

## 2 学期終業式の校長メッセージ

冬至を一昨日に迎え、一陽来復、日脚がほんの少しずつ伸び始めました。

2020 年は、何年も前から東京オリンピック開催とそれに伴う様々な発展が期待され、明るい曙光に溢れる年として待望されていましたが、人知を超える不測の事態の勃発で、ガルブレイスの「不確実性の時代」よりも一層不確実を実感する年になってしまいました。今年の1月の、アントニオ・グテレス国連事務総長による国連創設 75 年の年頭のメッセージでは、不平等の蔓延・戦争・温暖化をはじめとする気候変動等、世界の危機的な状況について指摘はありましたが、SDG s による改善の可能性や若者の熱意ある行動への囑望が述べられ、希望に満ちた新しい年の幕開けを予感させるものでした。しかし、それから僅かの間に、伏兵ともいふべき COVID 1 9 (新型コロナウイルス感染症) によるパンデミックが起り、日本・そして世界は、それまでの常識が通用しない「ニューノーマル」を模索する日々を歩むことになってしまいました。

3 月初めからの一斉休校に始まり、緊急事態宣言の発令によって臨時休校が続き、学校の本領である「face to face の対面授業」が出来なくなり、Google ドライブを使った課題配信・Google Classroom や Google Meet によるオンライン授業の開始等、「未来が早くやって来た！」と思いつつ試行錯誤することの連続でした。そのような中で、教職員で数週間かけて「応援メッセージ動画」を作成して、ある週の週末に皆さんにお届けしたところ、翌週の月曜日に、なんと！高 3 から「先生方への御礼のメッセージ動画」が返信され、嬉しさと共に、あまりのスピードにびっくり仰天！教職員一同、励まされ、喜びのうちに滂沱の涙を流しました。御心遣いに溢れる皆さんの行動から、言葉で語り尽くすことができないほどの莫大なエネルギーを戴いたことに、心より感謝しています。本当にどうも有難うございました。

光塩での学院生活の結びの年を過ごされている高 3 の皆さんをはじめ、全校生徒のみなさんは、その後、光塩祭・体育祭をはじめとする学校行事の変更・中止を余儀なくされました。皆さんに辛く寂しい思いをさせたこと、心よりお詫び致します。高 2・中 3 の修学旅行の中止、各学年の様々な行事も「できる範囲で実施」という形での変更となり、学院生活における人間的成長の場、ビッグな思い出作りの機会を逸することになり、申し訳なく思っています。ごめんなさい。

行事の変更の中、オンライン光塩祭では、高 3 を中心に、オリジナリティ溢れる、心のこもった、熱意いっぱい実力発揮の動画を作成して下さったこと、感激しました。例年、土・日の二日で開催される行事ですが、一年間のクラブ活動の総決算・集大成であることを心に刻ませてくれる作品群に仕上がっていて、底力を感じました。また、全体の編集には、歴代の卒業生の援護射撃があったことも嬉しく、光塩ファミリーの協働力に感謝！感謝！でした。

一方、親睦会に代わる今年独自の企画として総務メンバーが発案して下さった「フェアトレード商品カタログ」も、出色の出来栄でした。単なる商品カタログを超えて SDG s

の掲げる目標とも繋げて「もう一人の友」との連帯を促す啓発的な内容で、親睦会本来の意味を思い起こす素敵な機会になりました。親睦会企画はまだ続行中の由、3学期の活動も楽しみにしています。

そして、2020 親睦会特別企画として特筆すべきは、九月下旬から三回に亘って開催された探究特別講座「イマドキ光塩生が考える今ない仕事」の総括として開催された 11 月 14 日に実施の「A P U 立命館アジア太平洋大学学長 出口治明先生オンライン講演会」です。探究特別講座「イマドキ光塩生が考える今ない仕事」では、卒業生・保護者の方へのオンラインによるインタビューを経て、学年を超えたグループで「今ない仕事」を S D G s に繋げて考案するというもので、最終日の発表会では、今の時代をきっちり把握して将来をしっかり見据えた根源的なテーマが目白押しで瞠目しました。更に、初等科・中高等科の児童・生徒・保護者に広く公開することで「開かれた学校」をイメージし、親睦会の代替行事の一環とすることを旨とした、出口治明先生の講演会の講演タイトルは「今、日本人に必要なこと」。I 新型コロナについて、II アフターコロナ時代の学び、III 子どもの育て方等、今の時代を生き抜くための示唆に富んだ内容が満載で、考えるヒントをたくさん戴きました。講演会を聴き損ねてしまった方に朗報です。講談社様が「現代ビジネス」の記事に取り上げ、12 月 15・16 日に配信してくださいました。出口先生の御声が聴こえ、御姿が髭髯と浮かんでくるような文章です。学校 HP に URL を掲載しましたので、臨場感を味わいながら、是非追体験なさってください。

出口先生の御講演や探究特別講座とも繋がりますが、ウイズコロナ・アフターコロナの時代を生きる私たちは、日々、答えのない問いに向き合い、自分の頭で考え、解決策を探る探究的な姿勢を要請されます。「こうかなあ、ああかなあ」と思索する習慣が不可欠です。その機会になれば……と実施したのが、「思考の道場 TANUKI レポートコンテスト」で、今回の課題は、〈「コロンブスのアメリカ大陸〇〇」〇〇に入る二字熟語は？ あてはまる熟語と、そう考えた根拠をまとめて考察してみよう！〉でした。一般に言われる「発見」は、ネイティブアメリカンの存在やアメリカ大陸に初上陸したのはコロンブスではないという事実を勘案すると妥当でないことは明らかであり、また、世界史の教科書等に記載されている「到着」はニュートラルではあるけれども、歴史的事実を的確に表すにはインパクトに欠けます。チャレンジャーの皆さんは、どのように考えたか。今日は、入賞者とその方の考えた二字熟語を紹介します。

最優秀賞：高2 Sさん「進入」論旨明快で複眼的思考がみごと。

優秀賞：中3 Kさん「整合」現代に生きる我々の問題に敷衍したところが流石。

佳作：高2 Tさん「遭遇」アメリカ大陸に視点を転換したところがヒット。

中1 Sさん「物語」ファンタジックな発想が素敵。

中1 Kさん「到達」ネイティブアメリカンの立場にも触れバランスが良い。

中1 Kさん「支配」ネイティブアメリカンへの慮りに溢れ人間味がある。

以上の入賞者の方々には、後ほど担任の先生から賞状と副賞の狸グッズを渡して戴きます。

素晴らしいレポートから多くのパワーをもらいました。これからも、思索を続け、脳味噌を活性化させ続けてください。

今回のレポートコンテストで考察したように、一般に定着した言い方の中に潜在している不可思議な表現を、折に触れて探して探究してみてください。ブレインストーミングになります。一方、短い期間に感覚が変わった言い回しも存在します。例えば、最近では、「密」の用法に変化が見られました。「連絡を密に取る」は今までも日常的でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって「三密」が仏教用語から日常語になり、「密な部屋」や「密な通勤電車」のように形容動詞から派生した名詞の使い方の幅が広がりました。

また、社会情勢の大きな変化の渦中、歴史の転換点に生きる今、常識や先入観に左右されないブレイクスルー的な発想が不可欠になる場合があります。物事を判断するとき、一旦立ち止まって、今迄身につけた教養をベースに自分の頭でしっかり考えることが大切です。更に言えば、非日常的な状況に置かれた今だからこそ、普段では気付きにくい本質的な問題、具体的には、対面で仲間に出会えることの幸せ、エッセンシャルワーカーの方々への感謝の思い、生きていることの有難さ等を考えるきっかけが得られるのではないのでしょうか。でも、この思考の契機も、平常の日常に戻るとあっという間に、失われてしまうと、MIT 名誉教授で歴史学者のジョン・ダワー氏は喝破します。

「個人の人生でもそうですが、国や社会の歴史においても、突然の事故や災害で、何が重要なことなのか気づく瞬間があります。すべてを新しい方法で、創造的な方法で考え直すことができるスペースが生まれるのです。関東大震災、敗戦といった歴史的瞬間は、こうしたスペースを広げました。そしていま、それが再び起きています。しかし、もたもたしているうちに、スペースはやがて閉じてしまうのです。既得権益を守るために、スペースをコントロールしようとする勢力もあるでしょう。結果がどうなるかは分かりませんが、歴史の節目だということをしっかり考えてほしいと思います」（朝日新聞 2011.4.29 朝刊掲載インタビュー「歴史的危機を乗り越えて」）」

ダワー氏の言は東日本大震災に際して発せられたものですが、約十年の時を経て、私たちも今、「歴史の節目」を生きています。今を生き抜き、次の世代に、社会そして地球環境を繋いでゆくためにも、一学期からお話している学校目標のサブテーマとして示した「塩 SALT」を頭文字にもつキーワード

Sustainability 持続可能性—環境問題

Ambition 大志—夢の実現

Lux Veritatis 真理の光—学問探究

Tolerance 寛容—多様性

を思い起こし、「世界・環境」についての思考を深め、「自己・学び」と対峙して、この冬休みを有意義に過ごしてください。

明日は、クリスマスイブ、明後日は愈々クリスマスです。一昨日のオンラインクリスマス会では、クラスごと学年ごとの団結の賜物であるハーモニー、部活からの素敵な演奏と歌声

のパフォーマンス、高2有志の方からの芸術性の高い作品の披露、木ノ脇先生作曲・伴奏による篠崎先生の心の琴線に触れる独唱、そして聖書研究会と中三生によるみごとな発表、その全てをイエス様の誕生を祝う、文字通りのクリスマスプレゼントとしてお捧げすることができたと確信しています。クリスマスは、神であるイエスキリストが、人となって生まれくださったこと、人間として生まれるほど人を愛してくださったことをお祝いする日です。クリスマスは、優しさ・慈しみ・思いやりを祝う時でもあります。イエスの言葉「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイによる福音第28章20節)に信頼を置き、神様の愛を噛み締めて、心の平安のうちにクリスマス、そして年末年始を過ごすことができますように！

特に、節目の時を迎える高3・中3の皆さんが、夢の実現に向けて、神様からのGIFT(天賦の才)を信じて全力投球の時を過ごされますよう、たくさんお祈りしています。

高2・高1・中2・中1の皆さんも、納得のゆく冬休みでありますように！

光塩ファミリー皆が、「すべてのいのちを守る」ことを心に留め、健康に留意して心豊かな時をすごされますよう願っています。2021年、希望に満ちた佳き御年をお迎えてください。今日も、そして年末年始もファイト！です。 喝！

出口治明先生オンライン講演会の様子はこちら(現代ビジネスの記事より)

前編 [コロナ激変時代、「なぜ勉強するの？」と子供に聞かれたらこう答えよ\(12.15掲載\)](#)

後編 [出口治明さんが“子育てに迷う”すべての親に伝えたい「これだけのこと」\(12.16掲載\)](#)